



報告事項 3

楽曲「1867」お披露目コンサートについて

1 楽曲「1867」(完全版)のお披露目

2017 年は 1867 年パリ万国博覧会 150 周年にあたります。戸定邸の建設主・徳川昭武はこの万博に兄の将軍慶喜の名代として参加しました。わが国近代化の原点ともいべきパリ万博 150 周年を記念し、戸定歴史館では渋沢史料館、日本仏学史学会、千葉大学園芸学部などと連携して、展覧会、シンポジウム、講演会、音楽や食のイベントなどの多彩な行事からなる“PROJECT 1867”を実施予定です(細目については後日発表いたします)。

今回は、11 月 27 日に行うコンサートでそのテーマ曲となる荒川洋作曲「1867」(完全版)のお披露目をいたします。

このコンサートは松戸駅周辺商業協同組合と官民連携し、同組合が実施する松戸クリスマス音楽祭参加事業であり、同時に来年 3 月 18 日から始まる“PROJECT 1867”のイベントでもあります。

2 楽曲誕生までの経緯

戸定歴史館では、文化財を礎として文化創造を目指す 戸定アートプロジェクトを行っています。さまざまな芸術家の参加を得る中で、徳川昭武の本籍地であった現在の墨田区に活動拠点を置く新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーにも協力をいただいています。

昨年は「松戸クリスマス音楽祭」に参加し、同交響楽団メンバーに演奏していただきましたが、そのコンサートで徳川昭武が将軍名代として参加した 1867 年パリ万国博覧会とそのドラマに着想を得た楽曲「1867」(初演版：荒川洋作曲、作品 102)が披露されました。同氏は新日本フィルハーモニー交響楽団のフルート奏者でフランスに取材した作曲を数多く手がけています。

徳川昭武の経験したドラマが見事に投影された「1867」をこのプロジェクトのテーマ曲として使用したいと協力依頼をしたところ、荒川氏から全面協力の快諾をいただき、初演版の完成度をさらに高めた完全版作曲の申し出を受けました。

